

「福井ふるさと元気宣言」推進に関する政策合意

私は、「福井ふるさと元気宣言」に掲げられた政策等を実現するため、次に掲げる施策・事業について重点的に実施することを西川一誠知事と合意します。

平成 27 年 7 月

福井県知事 西 川 一 誠

福井県教育長 森 近 悦 治

27 年度目標（30 年度目標）

27 年度の施策

1 福井から人材育成

◇「ふるさと」を思うグローバル人材教育【部局連携】

○「ふるさと教育」の充実

- ・ 昨年から実施している本県ゆかりの企業経営者等による授業を全ての高校に拡大していきます。（平成 26 年度 13 校）

20 校（26 校）

- ・ 中学・高校でふるさと福井にゆかりのある 100 人の先人について学ぶ教材を作成し、授業等で活用します。
- ・ 白川文字学を活用した漢字教育を推進する漢字指導者などを増やすとともに、漢字能力検定協会等と連携し、漢字教育の福井モデルを全国に普及します。（平成 26 年度 137 人）

63 人増 累計 200 人（累計 300 人）

- ・ 立命館大学等の研究機関との共同研究や資料の相互利用を進めるとともに、全国の研究者によるリレー講座の開催などにより福井発の文字学研究を進めます。

○外国に出せる外国語教育

- ・中学生・高校生はA L Tの活用、教員の研修による授業改善等により、英語力の向上を図ります。

(平成 26 年度 英検 3 級相当以上を取得した中学生 38%
英検準 2 級相当以上を取得した高校生 35%)

中学生 41% (50%)

高校生 39% (50%)

- ・中学・高校の英語教員が外部検定試験を活用し、英語力の向上を図ります。
- ・小学校全教員がラジオや映画等を活用し、自ら英語を学びます。
- ・中学校で、地域の観光地などふるさと福井のよさを英語で表現した P R カードを作成し、修学旅行等で国内外へ発信します。
- ・中学校の A L T を増員し、また、授業公開など A L T の研修を充実して、英語の授業改善を進めます。
- ・高校入試における英語スピーキング・テストの導入に向けて検討を進めます。
- ・高校と大学が連携して中国語や中国経済等の授業を行うなど、中国語教育を進めます。

○福井から世界に挑戦

- ・「サイエンス・国際コース（仮称）」の県立高校（嶺南）での設置に向けて、設置校・設置時期およびコースの概要を決定します。

◇「福井型 18 年教育」の進化【部局連携】

○新たな教育振興基本計画の策定

- ・これからの教育の基本方針と今後 5 年間の具体的な施策をまとめた新たな教育振興基本計画を年内に策定します。

○幼児教育の充実

- ・ 5 歳児から小学校 1 年生をつなぐ「福井県保幼小接続カリキュラム」を全ての小学校区で実践していくため、市町幼児教育アドバイザー、園内リーダーを養成します。

○「学力・体力」伸ばし「社会力」

- ・ 全国と県の学力調査結果を早期に分析し、課題に対応した指導事例集を作成して、授業改善を進めます。
- ・ 地域の祭りへの参加など体験学習の好事例について調査・研究し、社会に主体的に参画する子どもたちを育成します。
- ・ 県立高校の全教員に公職選挙法などの正しい知識を身につけるための研修会を実施するとともに、生徒に対して社会人としての自覚や意思決定をする力を身につけるための授業改善を行います。

○児童・生徒はみんな笑顔に

- ・ 発達障害等のある児童生徒への継続した支援のために、新たに校種間の連携会議を地区別に開催します。
- ・ 作業学習を充実し、学校ごとに特色ある新たな商品開発等に取り組み、**展示会や販売会を拡大**します。（平成 26 年度 60 回）

75 回（120 回）

- ・ 児童生徒の自己チェックによるいじめの早期発見や「サポート班」の組織的対応による早期解消などいじめ対策を進めます。
- ・ 教員やスクールカウンセラー等で構成する「支援チーム」を組織して、不登校への初期対応を徹底します。

○教員の授業力・指導力の向上

- ・授業改善の研究や I C T 教材の開発、県外の研究者や退職教員の活用などの拠点として教育研究所の機能強化を検討します。
- ・若手教員の通信研修に授業名人の動画を活用するなど、今年度から**本格的に通信研修**を進めます。
(平成 26 年度通信研修受講件数 1,375 件)

2,000 件 (6,000 件)

- ・拠点校に整備するタブレットにより、授業改善を進めます。

○高校の学力向上

- ・各大学の入試問題の出題傾向や解法を熟知し、指導できる教員の養成を強化し、生徒の進学希望実現を支援します。
- ・県外トップ進学校の進学指導を調査・分析し、県内各高校の指導体制の強化や進学指導担当教員の指導力向上を進めます。
- ・進学目標の設定や進路実現を支援するため、大学生と高校生が、大学での学びや将来の夢などについて語る会を開催します。

○職業高校の新カリキュラム・産業教育プログラム

- ・職業系高校の生徒などの資格取得の意欲の向上を図る福井フューチャーマイスター制度を企業の協力を得て創設します。
- ・資格試験の受検料の負担軽減について検討するなど、受検促進を図ります。
- ・若狭東高校において、薬用植物の産地化や植物工場など高度な施設園芸や 6 次産業化などに対応できる人材を育成します。

◇学校の再編・統合

○県立高校の次なる再編に道筋

- ・奥越・若狭・坂井に続く地域の高校再編と定時制課程の見直しに着手します。

○小中学校の統合支援

- ・統合する小・中学校と過疎地域等の小規模校への支援のあり方について検討し、学校再編支援制度をまとめます。

2 先進的な医療と福祉、健康長寿のふるさと貢献

◇県民の健康サポート・システム【部局連携】

○子どもの目と歯・生活の健康

- ・全小中学校で目を休める時間を設けるほか、目の動きをスムーズにする運動を新たに始めます。
- ・学校と家庭が一緒になって、近視予防につながる規則正しい生活の定着を図ります。
- ・小学校1年生から4年生までの児童に「正しい歯みがき教室」を実施します。
- ・1年生と4年生に対し歯の二次検診を実施するほか、口型模型を活用し、歯科医師会の協力の下、家庭と協力して正しい歯みがきの定着とむし歯治療を促進し、**むし歯のない小学生**を増やします。
(平成26年度 65.9%)

67% (73.6%)

- ・子どもたちのSNSやメール、ゲーム等を使用する時間帯・1日の使用時間・使用方法に関する指針に基づき、適正利用を推進します。
- ・県内の全ての高校において、生徒自らがスマホに依存しないルールづくりなどについて検討し、統一した行動につなげます。

3 日本一の安全・安心（治安充実から治安万全へ）

◇「安全・安心ふくい」確立プラン【部局連携】

○子供を守る耐震化の促進

- ・児童生徒の学習の場であり、地域住民の避難場所ともなる**学校施設の耐震化**や、天井等の落下防止対策を進め、安全・安心を確保します。
（平成 26 年度 94%）

100%

4 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ

◇「ふくい食ブランド」を地消・外商【部局連携】

○日本でいちばんおいしい学校給食

- ・栄養教諭がプロの料理人等の協力を得て、地場産食材を使ったおいしいメニューを開発するほか、「食育の日」や「ふるさとの日」を中心に、学校給食で提供します。
- ・調理方法や手順、味付け等、調理従事員の調理技術向上を図り、おいしい給食の実現を推進します。
- ・学校給食調理コンテストを開催するとともに、全国レベルのコンテストで上位入賞を目指すことで、本県給食のおいしさのレベルアップを図ります。
- ・新たに中学校版食育教材等を作成・活用して、小学生から中学生に継続した食育を行い、食に関する知識の定着と食の選択能力の育成を図ります。

5 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略

◇観光フロンティア・福井【部局連携】

○観光人材の育成

- ・商業系高校全6校で新設した観光に関する授業において、地域の観光資源の調査・研究などのワークショップを通して、観光プランを発信します。
- ・旅行業者等の外部専門家による授業を行い、観光に関する興味・関心を高め、専門資格取得を支援します。

6 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に

◇県民総参加の福井国体【部局連携】

○競技力を高め「優勝」の実現

- ・今年の和歌山国体で昨年の17位を上回る成績を確保するために、オリンピック経験者などの指導者から直接指導を受ける機会を充実します。

10位台（優勝）

- ・「スポジョブふくい」等で有力選手の確保を進めます。さらに、出身大学の練習参加など、個々の状況に応じた競技力向上への支援を行います。（平成26年度 48人）

60人（累計200人）

- ・福井国体で中心となる中学3年生の優秀な選手が重点強化校等に進学しやすい環境を整えます。
- ・福井国体での総合優勝に向け、競技団体と一丸となって、人材の適材適所の配置など、競技力向上のための組織体制を充実強化します。

◇「スポーツ福井」の実現

○子どもから大人まで気軽にスポーツ

- ・県民スポーツ祭に併せて、国体デモンストレーションスポーツなど気軽に参加できるスポーツイベントを開催します。
(平成 26 年度 5 市町各 1 回)

17 市町各 1 回 (17 市町各 2 回)

- ・冬季に屋内レクリエーションスポーツの体験会を開催し、スポーツに親しむ機会を提供します。

◇福井の文化をもっと身近に【部局連携】

○文学館の新展開

- ・著名作家や編集者が指導する「ふくい文学ゼミ」や文学ファン交流のための文学サロンを開催します。(平成 26 年度 —)

文学ゼミ修了者数 10 人 (4 年間計 50 人)

- ・日本近代文学館等と連携し、昭和の文豪をテーマに大型企画展を開催します。

○子どもの文化・芸術活動

- ・弦楽クラブを設置する学校を増やし、小中高校における弦楽奏者を育成します。
(平成 26 年度 98 人)

140 人 (200 人)

- ・小学校で墨と越前和紙を活用した授業、中学校・高校で越前和紙と日本顔料等を活用した授業を実施し、高校を中心に研究推進校を拡充します。(平成 26 年度 22 校)

35 校 (41 校)

○「こども歴史文化館」の充実と入館者アップ

- ・特別展示室やコレクションひろばを整備し、実物資料による子どもたちのふるさと学習を進めます。（平成 26 年度 53,259 人）

54,000 人（60,000 人）

◇福井が誇る歴史遺産の発信【部局連携】

○国宝・重文の指定迅速化

- ・文化財調査特別顧問の助言を得ながら、観光やまちづくりにつながる文化財指定を図ります。（平成 23～26 年度計 38 件）

10 件（4 年間計 40 件）

- ・歴史的遺産を活用したまちづくりを進めている地区の建物等を調査し、伝統的建造物群の選定を目指します。